

第4学年3組 国語科学習指導案

1 単元 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

教材「未来につなぐ工芸品」 「工芸品のみりよくを伝えよう」

2 目標

- 段落の中心になる言葉や文を捉えるとともに、結論につなぐ事例の挙げ方や順序、表現の工夫などを読み取ることができるようにする。
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、リーフレットの書き表し方を工夫することができるようにする。
- 自分が選んだ工芸品のみりよくがより伝わるリーフレットになるように、内容や学ぶ相手を自己決定しながら、意欲的に自分の考えを書いたり見直したりすることができるようにする。

3 単元計画 (16 時間)

段階	配時	学習活動	手立て
見通す	1/16	1 工芸品に関心をもち、単元のめあてをつかむ。 ○ 工芸品の写真を見て感じたことを出し合う。 ○ 題名読みをし、全文を読んで、初発の感想を書く。	○ 工芸品に対して関心をもちることができるように事前に収集した工芸品の写真や動画、パンフレットを提示する。 ○ 中のまとまりと筆者の主張の関係をとらえることができるように、3つの観点（言葉の使い方・事例のあげ方・文章の組み立て）を提示する。 ○ 必要に応じて見直すことができるように、要約のポイントや、中心文の見つけ方の既習事項を学習者用端末に配布する。(ICT)
	2/16	○ 感想を伝えあい、単元のめあてをつくる。 【単元のめあて】 筆者が伝えようとしていることをとらえて文章を要約し、気づいた説明の工夫を使って、自分が選んだ工芸品のみりよくが伝わるリーフレットを書こう。	
	3/16	2 「未来につなぐ工芸品」を読み、おおまかな内容をとらえる。 ○ 筆者の言いたいことが書かれている段落を見つけ、全体を「初め」「中」「終わり」に分ける。	
	4/16	○ それぞれのまとまりの内容をとらえ、筆者の主張をとらえる。	
	5/16	○ 「中」の例は、筆者の言いたいことがよく分かるように書かれているのかを読みとる。	
	6/16	3 文章全体を要約する。 ○ 「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を見つけて、表に整理をする。	
	7/16	○ 中心となる語や文を使って、筆者が伝えようとしていることがよくわかるように、文章全体を要約し、読み合う。	
行う	8/16	4 工芸品について書かれた本から、よさやみりよくを中心に調べ、リーフレットにまとめる。 ○ 単元のめあてや、「未来につなぐ工芸品」で見つけた説明の工夫を振り返り、「工芸品のみりよくを伝えよう」の学習の流れを確認める。 ・リーフレットの例を見て文章構成や資料の使い方を確認する。	○ 自分に適した方法で情報を集め、整理できるように、学習者用端末と、付箋をどちらも用意する。(ICT) ○ 自分が紹介したい工芸品への関心を高めることができるように、事前に集めた工芸品の写真や動画、実物を提示する。 ○ 構成を考える際、文と文を簡単に入れ替えることができるように、組み立てメモ、付箋を用意する。
	9/16	○ 工芸品について書かれた本や動画を利用し、他の人に紹介したいと思った工芸品を決め、どんなところに魅力を感じたのか、考えを書く。	
	10/16	○ 感じたみりよくを伝えるために必要な情報を収集し、整理する。	
	11/16	○ 文章全体の構成や記述の仕方を考え、下書きをする。	
	12/16	・文章の組み立てを考え、はじめと終わりのまとまりを書く。	
	13/16	・中のまとまりを書き、内容に合う資料を選定する。	
	14/16 (本時)	○ 中のまとまりについてよりみりよくの伝わる表現になるよう、見直す。 ・文章の組み立て・事例のあげ方・言葉の使い方	○ 文章を付加・修正する際に、いつでも見返すことができるように、事前に考えを付箋にメモしておく。
	15/16	○ 意見をもらったところの修正をし、推敲してリーフレットを仕上げる。	
振り返る	16/16	5 リーフレットに対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見つけ合う。 ○ つくったリーフレットを読み合い、よさを見つけ合う。	○ 感想を伝え合えうことができるように、付箋に書いて渡す活動を仕組む。

4 主眼

選んだ工芸品のみりよくが伝わるように、文章構成、事例の挙げ方、言葉の使い方の視点から学習内容を選択し、自分で選び直したり、友達から意見をもらったりして、リーフレットの「中」のまとまりの表現を見直すことができるようにする。

5 本時過程 **自己選択・自己決定の場（つなぎタイム）**

段階	学習活動・予想される児童の反応	手立て（○）と評価（◇）	配時
導入	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○ みりよくを伝える文章を書くポイントを確認めて、本時のめあてをつかむ。</p> <p>・中のまとまりの文章の組み立て（みりよく→よさが分かる文→できること） ・事例の挙げ方（分かりやすい例や写真を使っているか・事例の順序） ・言葉の使い方（みりよくが伝わる言葉・事物を表す言葉・わけ・強調など）</p> <p>自分が伝えたい工芸品のみりよくが、読む人により伝わる文章になるように、中のまとまりを見直そう。</p>	<p>○ 相手、目的意識・書くポイントを想起できるように「未来につなぐ工芸品」の読み取り図やリーフレットモデル文を提示する。</p>	5
展開	<p>2 「中」のまとまりについて、自分の表現の仕方を見直す。</p> <p>○ 自分の伝えたいみりよくが、より分かりやすく伝わるように、学習内容を選択する。 【内容選択】</p> <p>みりよくが伝わりやすい文章になっているかな。</p> <p>みりよくの後に、今でも使われている例を書いてみたけど、段落の文の順番はこれでよいかな。 博多人形のはなやかな色使いが、もっと伝わる写真はいいかな。 博多人形の「色がきれい」というよさが、もっと伝わる言葉はないかな。</p> <p>内容</p> <p>「中のまとまり」の組み立てを見直す。 「事例の挙げ方」を見直す。 「言葉の使い方」を見直す。</p> <p>【個別と協働の一体的充実】</p> <p>・みりよくがより分かりやすく伝わる文章になるように、グループで読み合い、まとまりの中の文の順序を見直す。 ・文章に適した写真を自分で選び直し、友達と見合う。</p> <p>○ 書くポイントにそって、自分で見直したり友達から意見をもらったりしたことをもとに、文章や写真の付加・修正をする。</p> <p>・友達が言ってくれたように、博多祇園山笠でも使われている身近な例を、「とくに伝えたいよさの文」のあとに書こう。</p>	<p>○ 意見交流がスムーズにできるように、事前に友達の文章を読んで自分の考えを付箋に書く活動を仕組む。</p> <p>○ 自分の文章を見直すことができるように、学習者用端末に、視点カード、語彙カード、工芸品ごとの写真を用意するとともに、言葉や文を付箋に書き込んで貼り替えたり、写真を選び直したりする活動を仕組む。（ICT）</p> <p>◇ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を見直すことができる。 【思・判・表】</p>	25
終末	<p>3 見直したことを全体で交流する。</p> <p>○ 見直したことと、そのわけを全体で交流する。</p> <p>・八女提灯は絵を書く写真を使っていたけど、和紙を貼るところの方が読む人は想像しにくいと思ったので、和紙を1枚ずつ手作業で貼っている写真に替えました。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>○ 「振り返りシート」で今日の学習を振り返る。</p> <p>・同じグループの友達と読み合ったから、とくに伝えたいよさの文を前にもってきた方がよいと分かった。 ・視点カードを見たから、具体的数字を入れて、より、みりよくが分かる表現の仕方をした方がよいと気づいた。</p>	<p>○ 修正したところが全体に見えるように、実物投影機を使って共有する。</p> <p>○ よく分かった学び方を振り返ることができるように、視点を提示する。</p>	10 5